

「修学旅行 系列別体験学習」

本校では平成22年度より沖縄への修学旅行を、2学年で実施しています。本年度は、12月10日（火）～13日（金）の3泊4日で実施しました。

今回の修学旅行は「平和学習」・「系列別体験学習」に重点をおいて計画・実施しました。様々な体験を通して「沖縄」の自然・文化・伝統・地域産業などを間近に感じることができるとともに、沖縄戦や基地問題に関する施設見学・講話を聴くことにより、沖縄の現状と平和の尊さを再確認することができるよい機会となりました。

☆系列別体験学習☆

この旅行の目的の一つである系列別体験学習を実施しました。5系列6分野に関係の深い施設等を訪問し、普段経験することのできない体験をすることで、新たな知識・技術を得ることができ、さらに興味・関心を深めることができました。

各系列の主な研修内容は以下の通りです。

（1）人文自然系列【訪問先：ニライカナイ（ちな陶房）】

人文自然系列の47名は、地元の歴史・文化を体験する目的でちな陶房を訪問しました。ちな陶房は、沖縄から古く伝わる絵文字やハチチという伝統的刺青をデザイン化した焼物のアクセサリーを扱っており、今回は漆喰シーサー作りを体験しました。沖縄の漆喰は、珊瑚の破片（生石灰）、稲ワラ、沖縄の土、水でできており、漆喰シーサーは古くは琉球瓦職人が伝え、広めていったそうです。

まず指導員から、漆喰のあらましと作業工程の説明を受け、その後ひとりひとりシーサー作りに取り掛かりました。作成手順は、

①漆喰を2つに分けます。



(指導員による指導の様子)



②次に下半身を作り、その後上半身を作りつなげます。



③全体に装飾を施します。



④最後に色を塗って完成です。



終了後生徒の感想は、最初はシーサーが自分で作れるのかかなり不安な人も多かったようですが、想像以上に簡単に作ることができ、最後は全員がとても楽しかったと好評でした。沖縄の風土・文化に直接触れることができるとてもよい機会だったと思います。

(2) 情報ビジネス系列【訪問先：国際通り、牧志公設市場など】

情報ビジネス系列は、3班に分かれ、ガイドさんの案内で「まちかど研修」を行いました。

国際通りは人が溢れ、活気に満ちていましたが、68年前の大戦では、夥しい数の砲弾が打ち込まれ、壊滅状態になっていたそうです。それから、復興していくさまを、路上で立ち止まりながら、ガイドさんが当時からの写真を見せながら説明してくださいました。



国際通りを外れて、「壺屋のやちむん通り」に入ると、ずっとバスの中で見ていた都会的な風景とは打って変わって、自然豊かでとても雰囲気の良い所でした。壺屋にただひとつ残っている登り窯、沖縄県指定文化財の「南窯（ふえーぬかま）」を見学しました。この地区での戦後の復興は、人々の生活が破壊され、生活必需品である椀や皿、壺などが不足している状況があり、その生産再開のために、それぞれの収容所に収容されていた陶工たちが集められた壺屋地域から始まり、今日に至っているということでした。

最後に、那覇市の台所と知られている「牧志公設市場」を見学しました。今まで食用としては見たこともない色鮮やかな魚介類や、豚の顔面・豚足など珍しいものだらけでした。食料品だけでなく、生活必需品としてのあらゆる物が薈めくように陳列されており、そこで生きている人々の揺るがないたくましさを感じました。



(3) 食料科学系列【訪問先：ニライカナイ】

食料科学系列生徒 15 名（男子 4 名・女子 11 名）は国頭郡宜野座村にある「沖縄体験ニライカナイ ぎのざ体験王国」の指導者夫妻の御指導のもと、サトウキビ刈り取りと黒砂糖づくりを体験しました。因みにニライカナイとは沖縄に昔から伝わる言葉・方言で、『海の向こう神々が住む島、楽園』という意味だそうです。体験の様子は次のとおりです。

①サトウキビ畑で刈り取りの説明



②専用鎌でのサトウキビの刈り取り



③圧搾器でサトウキビ汁を搾り出す



④抽出した汁を煮詰める



⑤煮汁を型枠に移し冷却し固める



⑥固まった黒糖を切り分ける



体験の最後に、簡単な沖縄の踊りを指導者夫妻に教えていただき、終始和やかな雰囲気でした。研修の成果は次のとおりです。①沖縄特有の自然や気候風土を生かしたサトウキビの栽培と黒糖の製造方法を学ぶことができた。②新里さん夫妻との交流を通して方言や沖縄の温かい人情に触れることができた。③沖縄の食や地域の伝統文化の一端を知ることができた。

(4) 環境デザイン系列【訪問先：ピオスの丘】

環境デザイン系列 16 名は、うるま市にあるピオスの丘に行きました。ピオスとはギリシャ語で“生命”という意味で、その名の通り自然にあふれ、たくさんの植物を見ることができました。カトレヤの仲間の洋ランや、デンドロビュームの仲間の洋ランがあり、洋ランでできたクリスマスツリーでは、チョコレートの香りがするランや、ダンシングドールと呼ばれる、ドレスのような形をしたオンシジュームというランを見ることができました。

そのほかにも沖縄の県花である“でいご”の木を見ることができ、でいごの花がよく咲いた年は、台風が多いといわれていると教えていただきました。園内には、沖縄の県木であるリュウキュウマツや、ハイビスカス、ピロウ、クチナシなどたくさんの植物があり、リュウノヒゲで形作られた霧を吹く龍のオブジェもあり、ただ植物を見るだけではなく、楽しみながら学ぶことができました。

ガイドさんの説明の後には、湖水鑑賞船に乗り自然に囲まれながら、湖畔の植物やカワセミやパンなどの小動物と触れ合ったり、水牛を見ることができました。遊御庭（あしびうなー）では、ヤギやブタなどの餌やり体験や木でできたアスレチックで遊ぶことができ、自然と触れ合いながら遊び、学ぶことができ、貴重な体験となりました。



(5) 福祉生活系列(福祉)【訪問先：社会福祉法人 縄僭生会 特別養護老人ホーム那覇僭生園】

福祉系列生徒 24 名は、社会福祉法人「沖縄僭生会」特別養護老人ホーム「那覇僭生園」の施設見学とデイサービスに通う 30 名ほどの利用者の方と交流をさせていただきました。僭生園は、6 階建の施設で 1 階に事務所とデイサービス、2～6 階が入所施設(特養)という造りになっていました。

前半は入所施設の見学を行いました。1 ユニット 10 名×10 ユニットで総勢 100 名の利用者が生活をされており、各ユニット一つ一つに「ちゅら海」「ニライ」「カナイ」「でいご」など沖縄にちなんだユニット名がつけられていました。各ユニットごとに家庭的な雰囲気を出すために家具や食器、室内の飾りなどで工夫がされていました。最高年齢の利用者は 108 歳で、他に 100 歳を越える方が 6 名(すべて女性)ということ、沖縄ならではの数え年 97 歳を祝う「年日(とぅしーび)」という行事があること、暖かい沖縄ではゆっくりと湯船につかる習慣があまりないことなど教えていただき、大変驚きました。利用者の方は穏やかな表情でゆっくりと過ごされており、私たちが笑顔で迎えてくださいました。



後半は、デイサービスの利用者の方と交流をさせていただきました。最初は緊張をしていました。しかし、職員さんの司会進行と利用者の方が質問してくださったり長崎のことをよくご存知でいらっしたことによって溶け込みやすく、すぐにいつもの笑顔が出てきました。私たちは長崎に昔から伝わる「でんでらりゅうば」の歌を披露し、その歌の意味もお話ししました。また、その「でんでらりゅうば」を替え歌し、簡単な振り付けを覚えていただき、一緒に踊っていただきました。利用者の皆さんに少しでもわかりやすく伝わるように、声を大きく出すことや、振り付けを大きくはっきりと表すこと、笑顔で周りを見渡しながら行うことを意識して行いました。

【でんでらりゅうば 替え歌】
カステラ ちゃんぽん 長崎名物
100 万ドルの夜景はよかばい
8 月 9 日 平和を祈る街



歌って踊った後には、手作りのクリスマスツリーを利用者の皆さんに一人ずつ手渡しで渡し、大変喜んでいただきました。最後には、デイサービスの職員さんが歓迎のエイサーを披露してくださいました。沖縄の皆さんは踊りが大好きで、さっきまで椅子に座っていらっかった利用者も立ち上がり、私



たちの手をとって踊ってくださいました。沖縄の人の温かみに触れ、楽しく交流できたことに感謝の気持ちでいっぱいです。今回の経験をよく振り返り、今後の学習や実習に活かしていきたいです。

(6) 福祉生活系列（生活）【訪問先：体験王国むら咲むら】

生活系列 27 名は、「体験王国むら咲むら」を訪問し、「紅型体験」を行いました。紅型（びんがた）とは、沖縄を代表する伝統的な染色技法の一つで、15 世紀から行われている、伝統的な手法です。琉球王国の時代、主に王族や士族の衣装として染められていたそうです。「紅」は色全般を指し、「型」は様々な模様を指していると言われていました。

図案は、あらかじめ糊防染したハイビスカス柄の小型マット（縦 15×横 25cm）を準備していただいていたので、色つけからはじめました。形は決まっていますが、限られた色を使い、境目がわからなくなるし、慣れない筆で塗る作業はなかなか難しいものでした。特に何色を使うか配色に特に悩んでいました。色つけは、ひとつの色を塗り終わると、ドライヤーで絵の具を乾燥させ、次の色へと進みます。最後の隈取りは微妙な色使いで色を重ねて、趣のある作品へ変身させることができます。ひとつひとつ個性的な色合いの作品ができました。最後の都合上、最後の糊を洗い落として乾燥させるところは各家庭に持ち帰っての宿題となりました。

ひとテーブルに 1 名ずつ付いていただいた先生方が、慣れない生徒たちに親切丁寧に教えていただきました。生徒たちにとって初めての体験でしたが、記念の品に満足できたようです。



「修学旅行 平和学習」

12月に行われる沖縄修学旅行に向けて、年間を通じて平和学習を計画・実施しました。

(1) 7月11日(水) 6校時 総合学習 夏休み課題説明

夏休み中に、沖縄修学旅行に向けて「沖縄の平和学習」「沖縄文化」の2つのテーマについて、例を見せながら夏休み終了後までに提出するように指示。

(2) 8月9日(木) 平和学習 平和講話

本校体育館において、末永浩先生(長崎原爆被爆者、元公立中学校社会科教諭、平和の語り部として、海外でも活躍中)をお招きして、「私と家族の原爆体験について」というタイトルでお話していただいた。



(3) 8月9日(木) 平和学習 生徒・職員有志による合唱

平成24年6月23日、沖縄戦で犠牲になった20万人余のみ霊を慰め、世界の恒久平和を誓う「沖縄全戦没者追悼式」で金城美奈さん(沖縄県立首里高校3年)の詩「礎(いしじ)に思いを重ねて」が読まれました。

その詩は、沖縄県平和祈念資料館が募った「平和のメッセージ展」に寄せられた1,796点の中から選ばれました。同じ年ごろの10代で戦死した祖父の兄が残した手紙を読み、その名が刻まれた平和の礎を訪ねた経験を基に、平和への願いを込められたものでした。

その翌年2月に長崎原爆の被爆者でつくる合唱団「被爆者歌う会ひまわり」が沖縄県立首里高(那覇市)を訪れ、前年の沖縄全戦没者追悼式で同高3年の金城美奈さんが読んだ平和の詩「礎に思いを重ねて」を合唱曲(長崎の音楽家寺井一通氏作曲)として披露した。

その曲を本校の生徒・職員約70名弱で事前に練習し、平和学習で全校生徒に披露した。



(4) 8月9日(木) 平和学習 千羽鶴作成

平和学習後すぐに千羽鶴を全校生徒で作成し、午後から生徒会代表が長崎市内の平和公園へ赴き、奉納した。



(5) 8月29日(水) 夏休み課題提出締め切り

クラス発表に向けて、発表の準備。

(6) 9月12日(水) 6校時 総合学習 クラス発表『沖縄文化』

クラスごとに、夏休みの課題の「沖縄文化」について、発表。



(7) 9月19日(水) 6校時 総合学習 クラス発表『沖縄の平和学習』

クラスごとに、夏休みの課題の「沖縄の平和学習」について、発表。

(8) 10月17日(水) 6校時 総合学習 修学旅行事前学習

2年生全員が産社室に集まって、第1回目の修学旅行に関する事前学習を実施。今年度の「沖縄全戦没者追悼式」のビデオを視聴。その後、修学旅行に関する話を聞く。



(9) 10月24日(水) 6校時 総合学習 修学旅行事前学習

2年生全員が産社室に集まって、第2回目の修学旅行に関する事前学習を実施。学年主任から行程の説明、文化的背景、平和学習に関することについて説明を受けた。

(10) 10月31日(水) 6校時 総合学習 修学旅行事前学習

2年生全員が産社室に集まって、第3回目の修学旅行に関する事前学習を実施。「原爆の図」の丸木夫妻が、戦争への怒りと、鎮魂と平和への願いをこめて作った絵本『おきなわ島のこえ』(作・絵:丸木 俊 丸木 位里)の画像を見せながら、国語科の中村先生に朗読していただいた。



(11) 11月7日(水) 6校時 総合学習 修学旅行事前学習

旅行者の添乗員をお招きして、旅程説明。

(12) 11月21日(水) 6校時 総合学習 修学旅行事前学習

注意事項等の説明。

(13) 11月25日(月)～27日(水) 朝のSHR等 千羽鶴作成

平和の礎に奉納する千羽鶴を2年生全員で作成し、修学旅行係が取りまとめた。

(14) 12月5日(水) 6校時 総合学習 修学旅行事前学習

しおり配布。追加の注意事項等を説明。しおりの中の目的でも「(2) 沖縄の歴史的遺産を実際に訪れ、生命の尊さや平和の大切さに気づき、平和を求める態度を育てる。」と謳われている。平和学習に関する資料も掲載されている。



(15) 12月9日(月) 6校時 修学旅行結団式

武道場において、結団式を実施。



(16) 12月10日(火) 修学旅行1日目

各バスの中で、バスガイドさんの説明の中で沖縄の状況や平和学習についても学習する。守礼の門・首里城等見学をし、琉球王国時代の栄華を体験した。



(17) 12月11日(水) 修学旅行2日目 平和ガイド

各バスに、バスガイドさんの他に平和ガイドさんに乗車していただき、終日沖縄の平和について説明していただいた。また、各バスの中で夏休み登校日に歌った『礎に思いを重ねて』を聴いた。

(18) 12月11日(水) 修学旅行2日目 壕

各クラス分かれて平和ガイドさんの案内により、壕見学。1・2組轟の壕、3組ヌヌマチガマ、4組ティダヌチジガマを見学。壕内は滑りやすく危険なので、この日は終日私服で行動しました。軍手と懐中電灯を各自準備して、壕の中に入って見学しました。平和ガイドさんが、当時の状況、壕の中の様子を事細かに説明してくださいました。



(19) 12月11日(水) 修学旅行2日目 平和集会

平和の礎で、2年生全員で平和集会を実施しました。沖縄の歴史的遺産を実際に訪れ、生命の尊さや平和の大切さに気づき、平和を求める態度を育てる。犠牲者に黙祷をささげ、冥福を祈るとともに、戦争の悲惨さ、平和の大切さを知ることが目的として実施。平和の宣誓、献花・千羽鶴奉納、黙祷を行った。



(20) 12月11日(水) 修学旅行2日目 平和学習

平和の礎で、各クラスに分かれて平和の礎の実際の人物について、平和ガイドさんによって説明を受けた。



(21) 12月11日(水) 修学旅行2日目 ひめゆりの塔・ひめゆり資料館

ひめゆりの塔とその隣にあるひめゆり資料館を見学した。



(22) 12月11日(水) 修学旅行2日目 道の駅かでな

各クラス別れて、それぞれの平和ガイドさんの案内のもと、道の駅かでの屋上展望台とすぐ目の前にある安保の丘に分かれて、嘉手納基地を見学。数分ごとに離着陸する

軍用機を見て、基地の規模や軍用機の離着陸時の騒音の大きさを体感した。



(23) 12月11日(水) 修学旅行2日目 佐喜眞美術館

佐喜眞美術館を見学した。普天間基地の一部を取り戻して建設された。慰霊の日(6月23日)には、太陽が一直線に沈むよう配慮して設計されている屋上の階段や普天間基地と中の展示作品を見学した。常設展示の丸木位里・俊夫妻による「沖縄戦の図」を見ながら、館長さんがその絵に込められた想いを当時の状況を交えて、説明して下さった。



(24) 12月12日(木)・13日(金) 修学旅行3・4日目

3日目は、美ら海水族館、系列別研修(人文自然:「漆喰シーサー作り」、情報:「ガイドと行く那覇市まちかど(牧志公設市場)研修」、食料:「サトウキビ刈りと黒砂糖作り」、環境:「洋ラン学習」、福祉:「那覇借生園 交流学習」、生活:「紅型体験」)、国際通り散策を行った。4日目は、国際通り散策と福岡で大宰府天満宮見学を行った。

(25) 12月10日(火)～13日(金) 修学旅行のしおり

毎日、夜の点呼までに修学旅行のしおりの中の「今日の感想」と「今日の一句」を記入し、担任のチェックを受ける。特に2日目の平和学習の日の感想には、沖縄戦の状況、その後の基地問題、これからの平和について、コメントがたくさん書かれていた。

(26) 12月20日(金) 修学旅行感想文提出締め切り

(27) 2月13日(火) 総合学科発表会

平和学習について、発表と展示を行う。